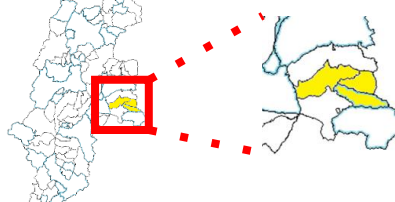


# 15 相乗り誘発型のオンデマンド移動サービスと配送代行サービスの提供

メンバー	<b>実施者</b> ：長野県 <b>連携団体</b> ：小海町、南相木村、北相木村、小海タクシー、MONET Technologies（株）、小海薬局、豊里薬局、ヤマト運輸、日本郵便	<b>対象地域</b> ：長野県南佐久郡小海町 （本村中村地区のみ）、南相木村、北相木村 <b>人口</b> ：5,848人（令和3年4月1日現在）
活動目的	中山間地域のヒト・モノの移動課題（非効率・不便・財政負担等）を解決するため、地元タクシー会社が運行するオンデマンド交通を中心とした、小海町本村・中村地区、南相木村全域での相乗り誘発型移動サービスと、前述の地域に北相木村を加えた地域での配送代行サービスを提供する実証実験を実施し、中山間地域における地域交通及び物流の持続性向上を探る。	 <p>人口及び地図は、小海町対象地域外も含む</p>

## 取り組み内容

キーワード：貨客混載／物流／広域連携／IT活用／ニーズ調査／データ分析

- ① ヒトの移動に関する実証運行：ヒトの移動実体を把握するために実施。延べ206人が利用。リピーターの比率が高く、「買い物や駅など様々な場所へ行きたい人」「通院に特化した人」「お出かけ自体が目的の気分転換したい人」と、ターゲットが3つに大別されることが分かった。
- ② モノの移動に関する実証運行：モノの移動実体を把握するために実施。延べ1,624個の荷物を配送。「ヒトのついでにモノ」の発想だったが、実体はモノの方が圧倒的にトリップ数が多かった。



### 2020年度の活動実績

モノの追加実証実験：2020年10月1日から31日間、モノを中心に配送した場合にスキマ時間にヒトの移動サービスを提供できるかを調査するために実施。日中の業務時間配分を工夫することで貨客混載できる余地はあることが分かった。

## 取り組みが地域に与えた影響

- 自由な時間で運行しても、8～10時台の通院や14時台の買い物等、移動したい時間はある程度固定化していった。
- バス停から遠い人や通院していると想定される人等、バス停までアクセスしにくそうなユーザーほど、リピーターになりやすい傾向にあった。
- 実証運行レベルの個数であれば、モノの配送だけで1日かかってしまうということはなく、日中の業務時間配分を工夫することで貨客混載できる余地があった。
- 他方で、当該地域におけるモノの配送の全量を扱えなかったため、物流事業者にとっては劇的なリソース軽減につながりにくいという課題が浮き彫りになった。また、交通事業者にとっても、従来業務に加え別の業務が純増するため、リソースの確保や利益の見込み等、事前に丁寧なサービス設計を行う必要があることが分かった。

### 取り組みで得た知見（これから取り組む方に伝えたいこと）

- モノの配送の業務時間配分を調整すれば、「ドアtoドア」のメリットを享受した形でヒトの移動との両立は期待できるが、交通事業者・配送事業者双方の貨客混載を行うメリットが、本実証からは十分に見出し切れなかった。
- 「生活圏域の範囲及び地理条件」「地元事業者の事情」「ヒト・モノの移動ニーズの内容と量」「使用車両」等を把握し、実証実験等を経て、住民だけでなく、プレイヤーとなる事業者の理解を得ていく必要がある。

## 専門家コメント\_福島大学

- ヒトとモノの輸送をどのような場面で掛け持ちすることが有効になるのか（逆に難しいのか）、その「勘どころ」を実証のなかで示すことができたのは、特筆に値する。
- 県が主体となって町村部の人とモノの移動に変化を入れた好事例。システムを導入するよりも、地域になじむ手法を設計するほうが重要である点を課題として導きだした点も評価が高い。成功事例として横展すべき内容。